



花き

菊の栽培管理について

営農指導課 宮木



冬季の温度管理については、生育初期から消灯まで昼間の温度を25℃程度、夜間の温度を12℃程度確保します。消灯前については、予備加温(消灯5日前より徐々に温度を上げる)から消灯後18~20日程度は昼間25℃程度、夜間16℃程度の室温を確保し、確実に花芽分化できる温度管理を行います。そのためには、暖房状態の確認はもちろん、内張りカーテン等の多層被覆による保温管理をお願いします。

消灯までの生育期間の電照時間については、冬至の時期が一年で最も日長が短くなりますので、5時間の点灯を行います。また、内張被覆に遮光資材を使用する場合は昼間の日長時間が短くなりますので、さらに点灯時間を長くするなどの注意が必要です。

12月以降の再電照については、開花遅延がおこりやすくなりますので、消灯後12日目に確実に顕鏡を行い、確認後実施してください。

3月の彼岸菊については、3月18日(土)が彼岸入りになりますので、3月11日(土)・13日(月)に出荷がピークになるように調整等宜しくをお願いします。

病気については、白さび病を中心に灰色カビ病や菌核病等、害虫ではアブラムシなど早めの防除を心がけてください。



園芸

西瓜と苺の管理

営農指導課 猪原



《西瓜雄花専用品種》

1~2月において天候不順等により交配のタイミングで雄花が不足します。特に早出しのスーパーエース、春のだんらん、春のだんらんRVの栽培時期に天候不順でも安定した雄花確保ができるよう雄花専用品種(SA-75)の導入を行い、花粉の確保をお願いします。

SA-75の特性は草勢が極めて強くならず、雄花が大きく天候不順でも開花・開やくが早いことです。育苗は従来通りで栽培を行います。

基本的には無肥料で栽培し、育苗期に摘芯する場合は親つる5~6枚で行い、子つる以下は完全放任します。

交配予定日に花粉不足を考慮する上で花粉の貯蔵を行い、花粉を確保しましょう。貯蔵にあたり開花・開やく後、早い時間帯に採花プラスチック容器にスイカ葉を2~3枚敷き、冷蔵庫(5℃)で貯蔵してください。貯蔵花粉は2日間が限界です。

《苺》

1. 温度管理

午前中は25~28℃、午後から20~23℃を目標に管理を行ってください。また、夜間は最低7℃を確保してください。

2. 葉かぎ・摘果

葉の枚数にとらわれず、黄化葉やダニが発生している場合には積極的に葉かぎを行ってください。

また、摘果は草勢に応じて行い、S玉になりそうなものは早めに摘果してください。

3. 病害虫

ハダニやスリップスが発生しています。また、年明けから曇天が予想されます。ハダニとスリップス、灰色カビを中心に防除を徹底してください。



畜産

豚舎の冬場環境

畜産課 新崎



冬場において養豚では特に温度、湿度、換気が重要となります。各ステージにおける温度管理に気を配り、冬場を乗り切りましょう。

○哺乳子豚と母豚では適温域が大きく異なり、母豚においては繁殖ステージ毎の下限温度も格差があります。特に哺乳及び離乳子豚は、必ず下限温度以上に保つようにしましょう。

○湿度の適正範囲は、約60~80%であり、豚舎内に温湿度計を設置し朝夕の確認を行い、冬場は乾燥(湿度50%以下)になりがちですが、舎内の浮遊塵埃の増加を招き呼吸器病の誘因となるので、時折散水などにより湿度を保つようにしましょう。

○豚舎内の有毒ガス(アンモニア、二酸化炭素等)の充満は、肺炎を引き起こす原因になります。適度に、十分な換気を行いましょう。

豚の適温度帯

ステージ	適温域(℃)		ステージ	適温域(℃)		ステージ別湿度
	下限温度	上限温度		母豚	下限温度	
子豚			母豚			ステージ
分娩~7日	30	35	分娩前	18	25	温度(%)
7~14日	24	28	分娩時	22	25	哺乳子豚
14~21日	24	26	離乳時	20	25	離乳子豚
21~28日	22	26	妊娠豚舎	18	25	肥育豚
28~35日	20	24	繁殖豚舎	16	25	種豚



農作業メモ



普通作

麦類の管理について

農産課 酒井



1. 生育状況

2023年産も播種期の天候が概ね安定していた為、全体的な生育は順調に推移しています。11月中下旬に播種された小麦は2葉期、11月下旬に播種された大麦は1~2葉期となる時期です。

2. 排水対策

土壌水分が多く過湿状態になると根の生理機能が低下し、生育不良・収量減少・品質低下等の影響がでます。ここ数年、排水溝の整備不良による湿害が発生しています。降雨時には時々ほ場を見回り、地表水が速やかに流水するようほ場の周辺、内部の排水溝を入念に整備しよう。



排水溝・畝立ての整備

3. 除草対策

生育期の雑草対策は遅れないように実施しましょう。初期除草剤であるボクサー剤やリベレーター剤は麦の2~3葉期まで使用が可能です。雑草の生育が進んでいる場合は効果が劣るため、その後発生した雑草は中期除草剤(ハーモニー剤等)で早めに対処しましょう。

●中期除草剤使用薬剤例

(10aあたり)

薬剤名	使用量	使用方法	備考(使用回数)
ハーモニー細粒剤 F	4~5kg		は種後~節間伸長前(但し、スズメノテッポウ5葉期まで)(1回)
ハーモニーDF 水和剤	5~10g	水100L	は種後~節間伸長前(但し、スズメノテッポウ5葉期まで)(1回)



果樹

1月の果樹園管理

営農指導課 村上



防除・施肥管理・栽培管理

品目	栽培管理	農業・資材名	倍数	対象病害虫
デコボン	収穫後は窒素主体の葉面散布を気温が高く天気の良い日を選び3~5日間隔で樹勢が回復するまで行う。この時にちゃんと樹勢を回復させておかないと着花が充実しない。	トランスフォームフロアブル	1,000倍	カイガラムシ類
柿	・主枝、垂主枝 長く伸びている場合は充実している部分で切り返す。 短く、弱くなっている場合は充実している部分より強く切り返す。 ・側枝の使用年数 3年未満の側枝については予備枝を作り更新の準備をする。 3年以上の側枝は早急に更新する。	ハーベストオイル	60倍	ハダニ
ハウス桃	確実に低温要求量を優先する。 7.2℃以下の積算時間が900時間必要。 ※満たない場合、開花率が激減します。	石灰硫黄合剤	10倍	カイガラムシ類
葡萄	・発芽促進剤の散布 ・芽キズ処理 剪定鋏や小刀等で主枝延長枝の発芽させたい芽の先端5~10mm位のところに1~2mm程度の切込みを入れる。	石灰硫黄合剤	7倍	カイガラムシ類
梨	密植状態の園地は風通しが悪く、黒星病の多発原因となる。また、樹勢が弱っている樹は主枝先端まで養分が行き届かず新梢の発生が弱い状態にある。 主枝が細くなっている部分は全て先端と考えてやや強めに切り返す。	トラサイドA乳剤	200倍	カミキリムシ
栗	樹と樹の間隔が狭く、園内全体が影をうつような密植園での結果部位は日の当たる樹冠上部のみとなって収量は減少し、樹の弱体化を招きます。縮・間伐を行い樹の間隔が2m程開くようにしましょう。			